

# 加藤文宏氏、辺野古事故後の 日本基督教団への注目集中を指摘

## 要点

- 著述家の加藤文宏氏が2026年4月26日、X(旧 Twitter)で「日本基督教団」の検索数急増に言及した投稿を発信
- 同投稿は2026年3月16日の辺野古沖船転覆事故の翌日から検索が急増したと指摘
- 加藤氏は同パターンを2022年7月の安倍元首相銃撃事件後における旧統一教会への注目と類似と分析
- 同氏は『檻の中の闇 統一教会信徒「拉致監禁事件」の深層』『検証 暴走報道』等の著書を持ち、note 連載「悪魔化の研究」で報道パターンを検証している

著述家の加藤文宏氏(@mostsouthguitar)が2026年4月26日、X(旧 Twitter)に投稿した内容が反響を呼んでいる(約700件のいいね)。投稿は2026年3月16日に発生した沖縄県名護市辺野古沖の抗議船転覆事故を契機に「日本基督教団」の検索数が急増した点を指摘するものである。

## 加藤氏の指摘

加藤氏は投稿で次のように述べた。

「日本基督教団」。聞きなれない名前だったかもしれない。辺野古事故の翌日に検索数が急増した。このパターンと酷似するのが暗殺事件後の統一教会についての検索。日基は、左翼・共産党・高校生死亡・活動家等々と一体のものとして納得され印象が固定したようだ。今までとはまるで違う視線を浴びている

加藤氏は、ある事件・事故をきっかけに特定の宗教団体への検索が急増し、関連語とともにラベルが固定する報道・世論の動きを観察する立場から、辺野古事故後の状況を**2022年7月の安倍晋三元首相銃撃事件後における旧統一教会への注目と類似のパターン**と分析した。

## 関連する報道と加藤氏の分析活動

辺野古事故をめぐるのは、世界日報メディアウォッチ(2026年4月2日、森田清策記者)が「抗議船転覆事故起こすもキリスト教の左傾化報じぬテレビに批判沸騰」と題する論考を發表している。同論考は、転覆した「平和丸」に同志社国際高校の「平和学習」参加者が乗船していた経緯、「不屈」船長の金井創氏が日本基督教団佐敷教会牧師であった経緯を整理した。

加藤氏自身は、note 連載「悪魔化の研究」「旧統一教会／家庭連合問題をまとめる」で報道機関の対応パターン(どのタイミングで報じ、何を割愛するか)を継続検証してきた。今回のXポストは、これら分析の延長として辺野古事故後の状況をリアルタイムで観察したものといえる。

本紙は同氏の主張に賛同するものではないが、宗教報道のあり方をめぐる議論の一断面として記録する。なお辺野古事故では犠牲者2名(うち1名は17歳)が出ており、本件の取り扱いについては遺族・関係者への配慮が引き続き求められる。